

# 沖縄本土復帰50年

1972年5月15日～2022年5月15日

## 米軍による主な事件・事故一覧

**ポイント** 自分の周りで同じことが起こったと想像して考えてみよう

### 1945年8月15日 終戦

- 9月24日 石川市で米兵が子供を背負った女性を拉致。母子は2年後に白骨死体で発見  
※45～46年に米兵による強姦・強盗・殺人が多発
- 1948年8月6日 伊江島で米軍弾薬運搬船が爆発。巻き込まれた106名が死亡
- 1951年10月20日 那覇市の民家に米軍戦闘機からガソリンタンクが落下。民家が全焼し親子ら5人死亡
- 1955年9月3日 嘉手納村内で米兵が6歳の女の子を殺害
- 1959年6月30日 石川市宮森小学校に米軍戦闘機が墜落。死亡17人(児童11名) 負傷者210人(児童155人)
- 12月26日 金武村のキャンプハンセンで、米兵が農婦をイノシシと間違えて射殺
- 1961年2月1日 伊江村の射撃演習場で弾拾い中の男性が射殺
- 12月7日 具志川村川崎に米軍ジェット機が墜落。2人死亡、4人負傷
- 1962年12月20日 嘉手納村屋良の民家に米軍輸送機が墜落。住民2人死亡、8人重軽傷
- 1963年2月28日 那覇市で男子中学生が信号無視の米軍トラックに轢かれて死亡。**米兵に無罪判決**
- 1965年6月11日 読谷村で米軍機からトレーラーが落下。下敷きになった少女が死亡
- 1966年7月22日 金武村で米軍逃走兵が女性を殺害
- 1967年8月2日 具志川村栄野比で男子高校生が米軍車両にはねられ死亡
- 10月3日 嘉手納村屋良の井戸に米軍基地から廃油が混入。井戸水が燃える
- 1968年1月4日 宜野湾村で米軍の航空燃料が伊佐川に流出。伊佐区の農作物は全滅。簡易水道が使用不能
- 11月19日 嘉手納基地内でB52墜落。民家300余戸に損害。住民4人負傷
- 1969年7月18日 米軍基地内でガス漏れ事故。米兵24名が入院
- 1970年5月30日 具志川村で米兵が下校途中の女子高生をナイフで刺す
- 9月18日 糸満町で米兵が主婦を轢き殺す。**米兵に無罪判決**
- 12月20日 コザ騒動 コザ市で米兵の交通事故をめぐり騒動が発生。70余台の米軍人車両が放火される
- 1971年6月17日 日米両政府間で沖縄返還協定に調印

### 1972年5月15日 本土復帰

## 研修

沖縄復帰50年を迎えた5月15日、戦争の悲惨さを学び、戦後の沖縄の苦闘を学ぶために、沖縄の現地に立ち、平和研修を開催しました！

「執行部コース」では、戦後の沖縄の実態と苦闘を学ぶことをテーマに研修を行いました。

復帰50年を記念して開催された展示物の見学や実際に沖縄市コザのまちを踏査し、米軍基地が地域に与える影響やコザ騒動の現地に立ち、実際にコザ騒動を体験した人の話を聞きました。その後、沖縄9条連の仲間から講演を頂き、意見交換、総括会議を行いました。

終戦後、米軍によって苦しめられ、闘い続けた沖縄の民衆の闘いを、少しでも学ぶことができませんでした。しかし、復帰から50年経った現在でも、日本の米軍基地の約7割が沖縄に集中しています。沖縄の苦しみは今もなお続いていると感じ、今私たちに何ができるのかを考えさせられる研修でした。

### ▼現地ガイドによるコザ踏査



### ■米軍基地が占める面積の割合の推移



### ■研修参加者からの決意表明

地本で沖縄研修をつくる。他の地本との合同開催も考えていこう/人に頼るのではなく自分たちが研修を作っていく/沖縄の人の生々しい気持ちを聞くことができた/コザ騒動は人を傷つけない抗議であったとわかった/現実を見て騙されない自分をつくる/労働組合は労働条件だけやればいいという組合員もいるが向き合っていく/労働組合が平和活動を取り組む理由を伝える/若手の現実に向き合っていく



▲美世志会梁次氏と共に総括議論を行う

## ■研修参加者からの感想

平和資料館で、住民が日本軍から迫害を受けたということを知った。

権力者は自分の利権の為なら私たちを捨て石にする。沖縄は終戦後も復帰後も苦しめられ、戦争の傷跡が残っている。私は沖縄の基地に疑問はなかったが、沖縄に不条理を押し付けていた。

阻止行動で現地の人に「皆さんは今日帰っていきますが私たちは毎日行動しています。基地問題は沖縄県だけの問題ではなく日本が抱える問題なんだと本土に戻って広めてほしい」と言われた。今まで自分が無関心だった。



たまたま私の家の近くに基地がなかっただけで、もし近くに基地があり騒音や危険と隣り合わせに生活していれば反対するであろう。

「青年部コース」では、戦争と基地問題の本質を学ぶことをテーマに研修を行いました。沖縄平和祈念資料館の特別展示や不屈館を見学し、沖縄の祖国復帰と平和な社会の実現を目指して闘った、沖縄の民衆の闘いを学びました。

この研修に参加する前と後では、基地に対する価値観が変わりました。今後は研修に参加した仲間と共に平和に向けて、実践します。



映像では分からない現場の空気感を体験できた。1台1台の搬出を遅らせていくことの積み重ねが、大きな抑止力になることを実感した。100台近く遅らせることができた。

## 2022/5/5 岸防衛相-米国防長官 辺野古推進 日米で再確認

米海兵隊 辺野古新基地



2018年6月撮影



©沖縄ドローンプロジェクト

2022年4月23日撮影